

～たすく株式会社の綱川先生より、家庭でもできる「環境づくり」について御紹介いただきます。



たすくとは？

私たちたすく(TASUC: Total Approach Support Union for Challenged children and their families)は、発達に凸凹のある子どもたちに関わる専門家集団です。国内外を問わず特別支援教育に関する知見を集積したTASUCメソッドを元に、療育教室、早期発達支援、放課後等デイサービス、就労移行支援など、幼少期から青年期そしてその後まで一貫して継続した療育・教育・支援の環境づくりをおこなっています。

アセスメントを通して、一人一人に応じた対応を

児童・生徒の目標設定をするには、まず理解することが先です。私たちはTASUCメソッドを元に、先生方が児童・生徒を理解し、明日からどのようなことに取り組むか目標設定をサポートしています。

子どもたちが安心して成長できる環境を整えることは、家庭での大切な役割のひとつです。特別支援学校では、子どもたちが学びやすくなるよう、環境を工夫しながらサポートしています。この取り組みをヒントに、家庭でもできる「環境づくり」の工夫を3つご紹介します。

1. 活動の場所を分ける工夫

子どもたちは、活動する内容に合わせた空間があることで、安心して行動しやすくなります。家庭でも「ここは学習をする場所」「ここは遊ぶ場所」といった形で空間を分けてみてください。

例えば、勉強するときにはリビングの一角に小さな机を用意し、周りにおもちゃや気になる物がない環境を作ると集中しやすくなります。さらに、好きな色のクッションやイスを用意すると、より安心感を持って過ごせます。

2. 時間を見える化する工夫

特別支援学校では、スケジュールを活用して「今何をするのか」「次に何をするのか」を視覚的に示しています。家庭でも同じように視覚的にスケジュールを提示することが、落ち着いて行動するためには効果的です。

例えば、朝の準備や夜寝る前のルーティンをホワイトボードや紙に書いてみるのはいかがでしょうか。「歯みがき→着替え→ご飯」のように順番を絵や写真で示すと、子どもたちは安心して行動できます。終わった項目にチェックをつけるなど、達成感を味わえる仕組みもおすすめです。

3. 活動を切り替えやすくする工夫

遊びなどの活動を終わらせることができず、家を出る予定の時間に遅れてしまったなんてことはありませんか？子どもたちにとってはいつ終わるかの見通しを持っていない状態で終わりを告げられるとパニックになってしまいます。「あと3回やったら終わりね」など、活動の量や回数、時間などの情報で終わりがわかりやすい状態にしてあげると活動を切り替えやすくなりおすすめです。

おわりに

家庭での環境づくりは、小さな工夫から始めることができます。子どもたちは、安心してできる環境の中で、少しずつ自分で行動する力を身につけていきます。ぜひ今回のヒントを活かして、ご家庭でも取り入れてみてください。